

出題 螢雪ゼミナール

長良北校・築樋拓真



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

問題【国語】

次の問題に答えましょう。

- (1) 1927年に短編小説「河童」を発表した作家は誰でしょう。
- (2) 河童の好物として有名な野菜は何でしょう。
- (3) 「屁の河童」とはどういう意味でしょうか。

豆知識 雑学コラム

「河童」と芥川

今日は河童について考えていきましょう。河童というと、頭に皿があつて、背中に亀のような甲羅を持つ空想上の動物ですよ。芥川龍之介の「河童」のよつに文学作品に出てきたり、その道の達人でも失敗することがあるという意味の「河童の川流れ」という言葉があつ

たりと国語と河童には少なからず関係があります。では、掘り下げてみましょう。

まず、河童という言葉はいつ生まれた

のでしょうか？ 古い時代のものとして

は、17世紀にイエズス会の宣教師が日本

語の単語をポルトガル語で説明するため

に作った「日葡辞書」に「河童」が紹介

されています。それによると、「河童」

は「カワラウ」という呼び方で「猿に似

た獣で川の中に棲み、人間と同じような

手足を持っている」と説明されています。

この時代、「川の近くに住む精霊みたいなもの」として広く河童の存在が信じられていました。しかし、「カワラウ」という呼び名や、「猿のような」見た目からわかるように現在私たちが想像している河童とは少し違うようです。現在イメージされる河童は、芥川龍之介の「河童」によって広まったイメージとされます。

こうしたことからも芥川龍之介の偉大さが分かりますね。

次に、何とも思わないくらい、簡単なことのことを「屁の河童」と言いますが、実はこの由来には諸説あります。一説に

は河童の屁（おなら）が弱々しいことから来ているともいわれます。確かに、きゆうりばかり食べている河童のおならは弱々しい気がします。一方他の説では、木のかげらを表す「木っ端」について小さく役に立たない火を、「木っ端の火」と呼び、それが訛って「屁の河童」になったという説があります。想像上の動物のおならなんか想像できないと思うところらの説の方が、信ぴょう性の高い説である気がしますね。どちらでも、納得できる説を信じてみましょう。

【解答】

（1）芥川龍之介

（2）カワラウ

（3）（1）カワラウ（2）カワラウ（3）カワラウ

（4）カワラウ

（5）カワラウ

（6）カワラウ

（7）カワラウ

（8）カワラウ

（9）カワラウ

（10）カワラウ

（11）カワラウ

（12）カワラウ

（13）カワラウ

（14）カワラウ

（15）カワラウ

（16）カワラウ

（17）カワラウ

（18）カワラウ

（19）カワラウ

（20）カワラウ

（21）カワラウ

（22）カワラウ

（23）カワラウ

（24）カワラウ

（25）カワラウ

（26）カワラウ

（27）カワラウ

（28）カワラウ

（29）カワラウ